

中長期事業戦略



サステナビリティを経営の中核に据え、事業の進化によって、社会価値・顧客価値の創造を両立していきます。

ブリヂストングループは、中長期を見据えたビジョンとそれを実現するための事業戦略をもって経営を進めています。ブリヂストングループは、創業者の経営理念であった「最高の品質で社会に貢献」を変わらぬ使命として掲げ、2050年、そしてその先の未来においてもサステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供するために、2020年から第三の創業(Bridgestone 3.0)と位置づけ、新たなチャプターへと踏み出しています。

ブリヂストングループは、サステナビリティを経営の中核に据え、社会・お客様・パートナーの皆様と新たな価値の共創に取り組んでいます。当社グループの「強みと特性(コアコンピタンス)」を活かしたイノベーションでソリューションを提供し、お客様の困りごとの解決や人々の生活の質(Quality of life)の向上に貢献することで新たな価値を創造するとともに、地域社会や地球との共生に向けて、社会課題の解決やSDGsの達成に積極的に貢献していきます。このように、当社グループ独自のソリューション活動を通じて社会価値と顧客価値を両立させながら創造し、それを拡大していくことで競争優位性の獲得にもつなげ、社会・お客様・パートナーの皆様と共に持続的な成長を目指していくのが、当社の描くサステナビリティを中核とした新たな成長戦略です。

この事業戦略の中核となる当社グループ独自のソリューションのプラットフォーム「Bridgestone T&DPaaS」を本格的に推進し、タイヤ・ゴム事業をさらに強化して確固たる地位を築きながらソリューション事業を推進拡大することによって、モビリティシステム全体を支えていきます。新しく設定したブリヂストンのブランドメッセージ「Solutions for your journey」は、当社グループのコミットメントを表現したものになります。

サステナビリティを中核とした中長期事業戦略構想 2020年～Bridgestone 3.0(第三の創業)



Bridgestone T&DPaaSによる価値の創造と増幅

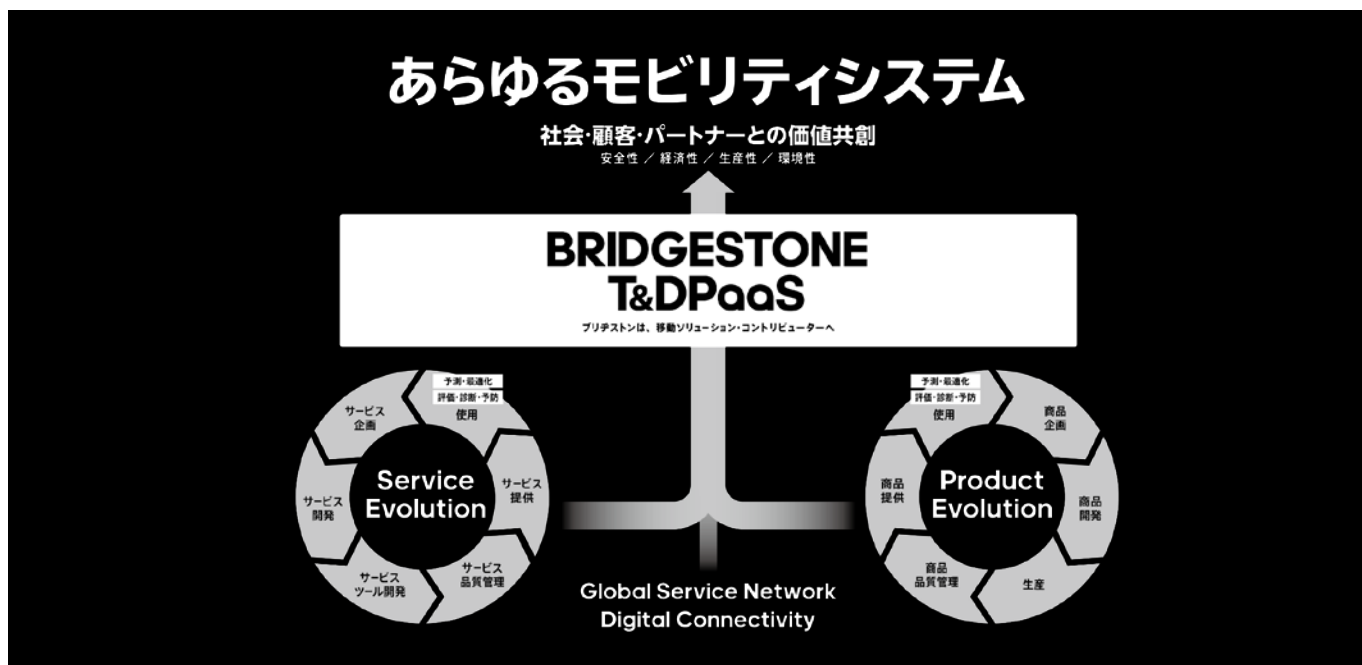
モビリティの進化を支える

タイヤは自動車部品の中で唯一路面に接する丸い接地体であり、これまであらゆる形/種類のモビリティ・クルマに装着され、それらの進化にあわせてタイヤも進化してきました。タイヤは、「走る」「曲がる」「止まる」といったクルマの基本機能を路面に「伝え」、実現する重要な役割があり、あらゆるモビリティ・クルマを支えています。今後、タイヤは「つながる」ことでますます重要な役割を果たすことができ

ます。モビリティが進化しシステム化されていく中で、タイヤとモビリティ・クルマという物理的な「つながり」を超え、タイヤを中心としたシステムがあらゆるモビリティシステムに「つながり」、それを支えることによって、将来に向けて価値を創造し続けることができます。



Bridgestone T&DPaaS



ブリヂストングループは、独自のソリューションビジネスのプラットフォーム「Bridgestone T&DPaaS」を推進し、進化するモビリティ社会全体を「支える」存在としてモビリティの進化に貢献していきます。断トツの商品・断トツのサービス・断トツのサービスネットワーク、そして強みであるリアルとデジタルを組み合わせたプラットフォームを

構築し、タイヤ・ゴム事業の強みを活かして社会・お客様の困りごとを解決する「ソリューションカンパニー」へと進化していきます。当社グループは、このプラットフォームを通じてあらゆるモビリティシステムとつながることにより、新たな価値を創造していきます。

タイヤ・ゴム事業の強みを活かしてソリューション事業へと進化

ブリヂストングループは、社会の変化を先取りし、チャンスに変えて、より積極的に社会課題の解決に貢献することが必要だと考えています。そのためにも、当社グループの強みであるタイヤ・ゴム事業を

さらに強化しながら、社会・お客様の困りごとを解決するソリューション事業へと進化していきます。



・ コア事業:タイヤ・ゴム事業は事業戦略の全てのベース

当社グループの強みでもある、「モノを創って売る事業」を将来に向けて強化していきます

ー (A事業)タイヤ・ゴム事業:高付加価値の断トツの商品を提供する事業

・ 成長事業:タイヤデータやモビリティデータを活用して新たな“価値”を創造し、“価値”を売るソリューション事業に進化

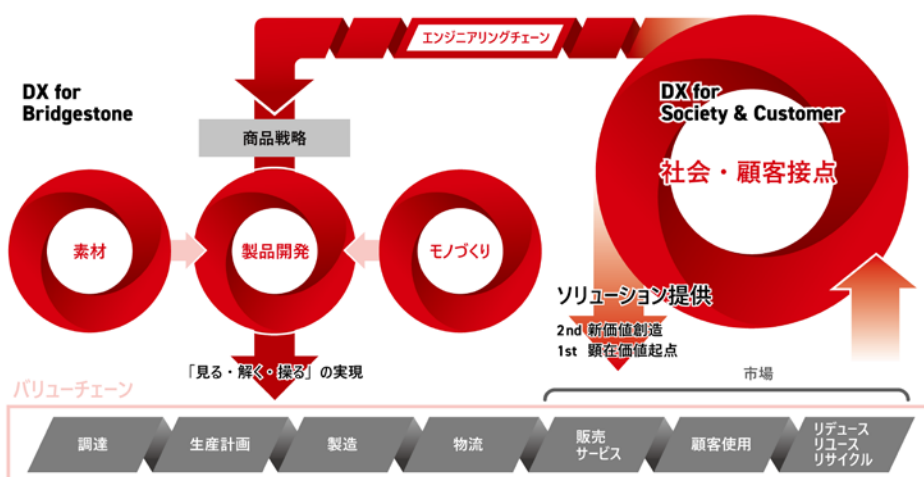
強いタイヤ・ゴム事業をベースに、タイヤデータやモビリティデータを活用して、新たな“価値”を創造し、“価値”を売るソリューション事業に進化していきます

ー (B事業)タイヤセントリックソリューション事業:タイヤ・ゴム/タイヤデータを活用し、高付加価値を提供する事業

ー (C事業)モビリティソリューション事業:タイヤ・ゴム/タイヤデータ/モビリティデータを活用し、新しい価値を提供する事業

価値のスパイラルアップで事業の価値を増幅

ブリヂストングループは、社会とお客様の困りごとを解決するソリューション事業を通じて蓄積されたデータや「現物現場」で得られたリアルな知見をデジタルトランスフォーメーション(DX)により高次元に解析することでさらなる価値を創造していきます。そして、解析したデータや知見を断トツの商品や断トツのサービスの開発に活かすことによって、さらにタイヤ・ゴム事業を強くしていきます。このように、価値のスパイラルアップで各事業の価値を増幅していくことが、新たな当社グループの事業戦略、成長戦略です。



社会価値と顧客価値の創造

タイヤ・ゴム事業(A事業)を通じた社会価値・顧客価値の創造

タイヤの歴史と価値の進化

タイヤはモビリティ・クルマとともに進化してきました。かつて馬車の時代には、木製の車輪が使われていました。そして馬車から自動車へと移行するのと時を同じくして、より快適で、より速く走ることができるよう空気入りタイヤが発明されました。その後、クルマが高性能化し、道路も舗装化が進むなかで、より丈夫で長持ちするバイアスタイヤの時代を経て、より高度な「走る・止まる・曲がる」を可能にするラジアルタイヤへと、タイヤは時代のニーズを反映させながら、機能的な進化を遂げてきました。そして近年では、タイヤには安全性や経済性以外にも、資源生産性やCO₂排出量削減、資源循環といった環境性能も重視されるようになっていきます。

このようなタイヤの進化のなかで、当社グループは独自の技術で、タイヤに求められる、「安全性」「環境性」「経済性」「生産性」を底上げし、社会価値、顧客価値向上に貢献する断トツの商品を開発してきました。例えば、タイヤがパンクした時にも安全・安心に移動、停止できる「ランフラットテクノロジー」やスリップしやすい凍結路面や

雪道でもしっかり止まって曲がる機能を果たす「BLIZZAK」シリーズは、その優れた安全性と品質で、高い評価を得ています。また軽量・低燃費を実現する「ECOPIA with ologic」や「ENLITEN(エンライトン)テクノロジー採用タイヤ」は、高い競争力を持った当社グループ独自の先進技術を採用し、「最高の品質で社会に貢献」が具体化されたタイヤだといえます。

そして今後、MaaS*¹・CASE*²に代表されるような新しいモビリティを支えるためには、タイヤにも革新的な発想が必要です。それを牽引していくのが、業界リーダーである当社グループの責任であると認識しています。人やモノの新たな移動のカタチを実現させるタイヤ、さらには月面探査車の足元を支える非空気入りかつ金属製でありながら弾性を持つ接地体など、革新的な断トツの商品づくりを目指します。そして、その中核には「サステナビリティ」や「サーキュラーエコノミー」といったキーワードがあり、私たちが目指すべき「持続可能な社会」に相応しい価値を持った製品づくりを進めていきます。

*1: MaaS (Mobility as a Service: 移動をサービスとして考える)

*2: CASE (Connected: つながる, Autonomous: 自動走行, Shared: 共有, Electric: 電動)

モビリティ・タイヤの進化



タイヤを通じて提供する社会価値・顧客価値

タイヤはクルマの数多くの構成部品の中で唯一道路に接する部品として、クルマの安全走行に大きな役割を果たしています。まさに「タイヤは生命を乗せている」ものであり、プリチストングループは、いつの時代においても人とクルマを足元から支え、安全・安心・信頼そして創造力豊かなブランドであり続けることに誇りを持っています。そのためにも、当社グループの強みと特性を活かしつつソリューション事業の活動から得られた新たな知見も取り入れて、素材や材料開発、モノづくりを含めたバリューチェーン全体でイノベーションを推進する

ことによって、様々なニーズに対して最高・最適なパフォーマンスを発揮する断トツの商品を提供する努力を日々続けていきます。また、タイヤは使用中の摩耗や空気圧管理などのメンテナンスを適時・適切に行うことが性能の維持には不可欠であり、当社グループは世界中に張り巡らされた断トツのタイヤ販売・サービスネットワークを通じて断トツのサービス提供を行っています。これらの活動を通じて、当社グループが特に重視する「安全性」「環境性」「経済性」「生産性」の4つの社会価値・顧客価値の実現に貢献していきます。

低燃費タイヤ*1 エコピア



低燃費タイヤ「ECOPIA」は持続可能な社会の実現に貢献するブリヂストングループの断トツの商品のひとつです。タイヤとしての安全性を保ちながら、転がり抵抗を低くすることでお客様の使用段階における低燃費に貢献する「ECOPIA」は、ライフサイクル全体でCO₂排出量削減に貢献するとともに、お客様の使用時における経済性を向上させます。また、雨の日でもしっかり止まる「ウェット性能」とも高次元に両立させることによって、お客様の安全・安心も支えています。タイヤを長く使うための「ライフ性能」や、「ドライ性能」「直進安定性」「静粛性」「乗り心地」の4つを加えた、7つの性能の総合的なバランスを高次元に保つことによって、お客様に価値を提供しています。

さらに次世代の低燃費タイヤ技術「ologic®」はこれまでにない新形状（狭幅化+大径・高内圧）により燃費性能の大幅向上に貢献します。「ologic」技術を採用したタイヤ「ECOPIA with ologic」は、BMWが開発した画期的な電気自動車BMW i3に標準装着された他、世界最高峰のソーラーカーレース、Bridgestone World Solar Challengeにおいて多くのチームに供給され、2019年大会では採用チームの優勝にも貢献しています。

*1: JATMA（一般社団法人日本自動車タイヤ協会）が定めたグレーディングシステムで低燃費と安全性が一定以上のレベルを満たしたタイヤ

ランフラットテクノロジー採用タイヤ*2



ランフラットテクノロジー採用タイヤは、空気圧がゼロになっても、所定のスピードで一定距離を走行できるためのものです。急なパンク時でも路上でタイヤ交換を行う必要がなく、安全な場所まで移動して停車することで二次災害を回避することが可能となるため、お客様の安全・安心な移動を支えています。また使用されずに廃棄されることの多いスペアタイヤ（応急用タイヤ）が不要になることで、省資源化及び車両軽量化による燃費向上にも貢献しています。当社グループは新車向けタイヤ以外にも、市販用次世代ランフラットテクノロジーを搭載してノーマルタイヤからの変更も可能*3な「DriveGuard」という商品を市場に先駆けて投入

しました。北米を皮切りに欧州など多数地域の多くのお客様にご利用いただきご好評をいただいています。

*2: 実車試験またはISO基準に基づいた室内試験条件で、空気圧0kPa時に「80km/hで80km」まで走行が可能

*3: 空気圧計測器TPMSが装着されているクルマへの装着が可能

スタッドレスタイヤ ブリザック



「BLIZZAK」は、冬道特有の凍結路面や雪道などでより安全に走行できるように、当社独自技術である「発泡ゴム*4」を採用し、運動性能などを高次元でバランスさせた冬タイヤで、お客様の安全・安心な冬の移動を支えています。さらに摩耗の原因であるタイヤと路面の「すべり」を低減し、効きが長持ちすることで、経済性の向上と環境負荷の低減に貢献しています。例えば日本の北海道・北東北地方主要5都市では19年連続装着率NO.1*5のスタッドレスタイヤの実績を持ち、世界中の降雪地帯で高評価をいただいています。

*4: 発泡ゴムは、タイヤ内部に多数の気泡と水路の配置を可能にした当社独自技術です。発泡ゴムにより、氷路面上にある「水の膜」を素早く除去し、タイヤが氷路面にしっかりと密着し、高いグリップ力を発揮します。

*5: 2020年1月～2月に札幌市、旭川市、青森市、盛岡市、秋田市の5地区において、二段無作為抽出法により抽出された乗用車（含む軽）を保有している一般世帯を直接訪問して、乗用車の装着スタッドレス銘柄を調査。ブリヂストンタイヤジャパン株式会社が第三者の調査会社に委託して実施。

非空気入り接地体 エアフリーコンセプト



「エアフリーコンセプト」は、特殊形状スポークが荷重を支えるため、空気の充填が不要な接地体です。パンクの心配が無く、省メンテナンス性にも優れるため、お客様の安全・安心な移動を支えるとともに、ノンストップ運行を可能にすることで生産性向上と経済性向上に貢献します。またタイヤトレッド部のゴムや、特殊形状スポークにもリサイクル可能な材料を使用する等、ライフサイクル全体で資源の循環と効率的な活用にも貢献します。現在、様々な機会でお客様のご意見を取り入れながら、実用化に向けた検討を進めています。

当社グループは、今後もパーソナルモビリティから月面探査車まで、様々なモビリティの足元を支える技術を強化し続けます。

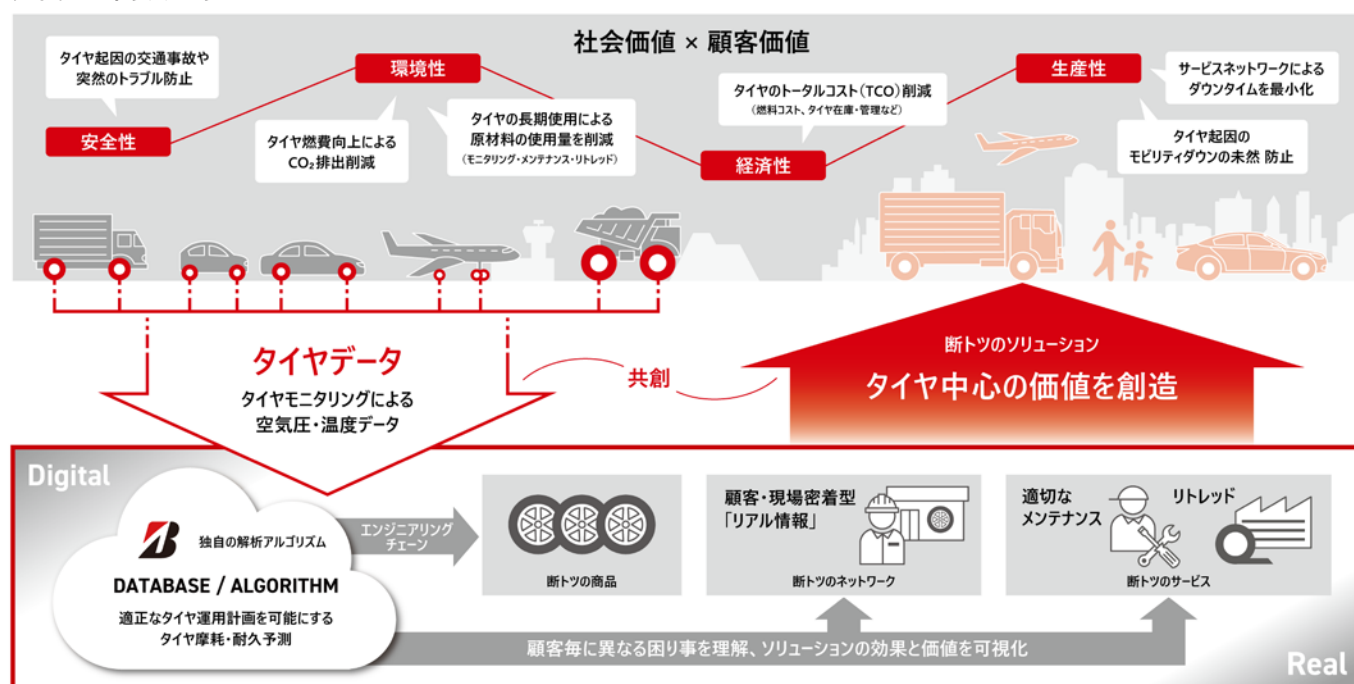
社会価値と顧客価値の創造

タイヤセントリックソリューション事業(B事業)を通じた社会価値・顧客価値の創造

タイヤの性能を最大限に発揮するためには、摩耗や空気圧の管理など、使い方にあった適切なメンテナンスを行うことが不可欠です。タイヤが故障すると、ドライバーは危険な状態に陥り、荷物を運搬している場合は物流を止めてしまう可能性もあります。また、空気圧が低い状態で走行は燃費やタイヤの摩耗の悪化につながります。こうした課題を解決し、お客様のタイヤを最大限に活用いただくために、タイヤデータを活用しながら、お客様に新たな付加価値を提供するのが当社グループの「タイヤセントリックソリューション事業」です。当社グループは、お客様に断トツの商品を提供するとともに、使用段階においても最適なメンテナンスなどの断トツのサービスを、当社グループが誇る断トツのネットワークを通じて提供する

ことで、「タイヤをライフタイム全体で最大限に活用いただく」という顧客価値を創造してまいります。具体的には、お客様の資産であるタイヤの有効活用や、管理工数削減・労務費低減などを通じたTCO(トータル・コスト・オブ・オーナーシップ)改善やダウンタイムの予防、そして安全運行に貢献していきます。これは同時に、安全で効率的なモビリティインフラを支えるとともに、タイヤを有効に活用することで資源生産性の向上や資源循環、タイヤのバリューチェーン全体におけるCO₂排出量の削減などの社会価値の創造にもつながっています。当社グループは、タイヤセントリックソリューション事業を通じて、社会価値と顧客価値を創造し両立させていきます。

タイヤセントリックソリューション



タイヤセントリックソリューションを支える技術・商品・サービス

デジタルテクノロジー

タイヤの性能を最大限に発揮するためには、使用条件に合わせてタイヤの空気圧や温度等を適正に管理し、メンテナンスすることが重要です。当社グループは、Tirematics(タイヤの空気圧や温度をリアルタイムで遠隔モニタリングするシステム)に代表される様々なデジタルツールを開発・活用し、タイヤのライフサイクル全体におけるデータ管理・分析を進めています。デジタルツールを活用することで、タイヤの状況を正確にモニタリングできることに加え、当社グループ独自のアルゴリズムによる摩耗状況や耐久性等の予測情報を活用することで、タイムリーで効果的なタイヤの予防保全が可能になります。また、適正な空気圧での走行をサポートすることは燃費の向上につながるとともにCO₂排出量の削減にも貢献します。さらには、故障を回避することにより、運行ダウンタイムの発生も予防することができます。

リトレッド

当社グループは、お客様が使用されたタイヤをお預かりし、すり減ったトレッド部分を貼り替え、再び使用可能となったタイヤをお届けするリトレッドサービスを、グローバルに展開しています。リトレッドに適した耐久性に優れたタイヤの開発に加え、デジタルデータを活用したタイヤ管理や、現場でのモニタリングを通じた適切なメンテナンスの提供により、1本



のタイヤを複数回リトレッドすることが可能になります。これにより、当社グループはお客様がタイヤをより長く、経済的に使用いただくことに貢献しています。また、リトレッドタイヤは、原材料使用量を新品タイヤの1/3以下に抑えられるため、資源生産性の向上やCO₂排出量の削減にも貢献しています。

サブスクリプション

当社グループは、新しいサービスとして、一定の月額費用で性能保証されたタイヤを継続使用でき、かつタイヤが故障や摩耗で使えなくなった場合、追加費用なくタイヤを交換できるタイヤサブスクリプションモデル

「mobox(モボックス)」を欧州市場にて開始しました。これはタイヤ以外にもエンジンオイルの定期交換等の各種車両メンテナンスサービスや夏冬タイヤ交換時の保管サービスなども含んだ総合的なサービスです。今後、他市場においても同様のサービスを順次展開していきます。当社グループは、断トツのサービスネットワークを活用した新しいビジネスモデルを通じて、お客様のより安全・安心な移動を支えるソリューションを展開しています。



モビリティソリューション事業(C事業)を通じた社会価値・顧客価値の創造

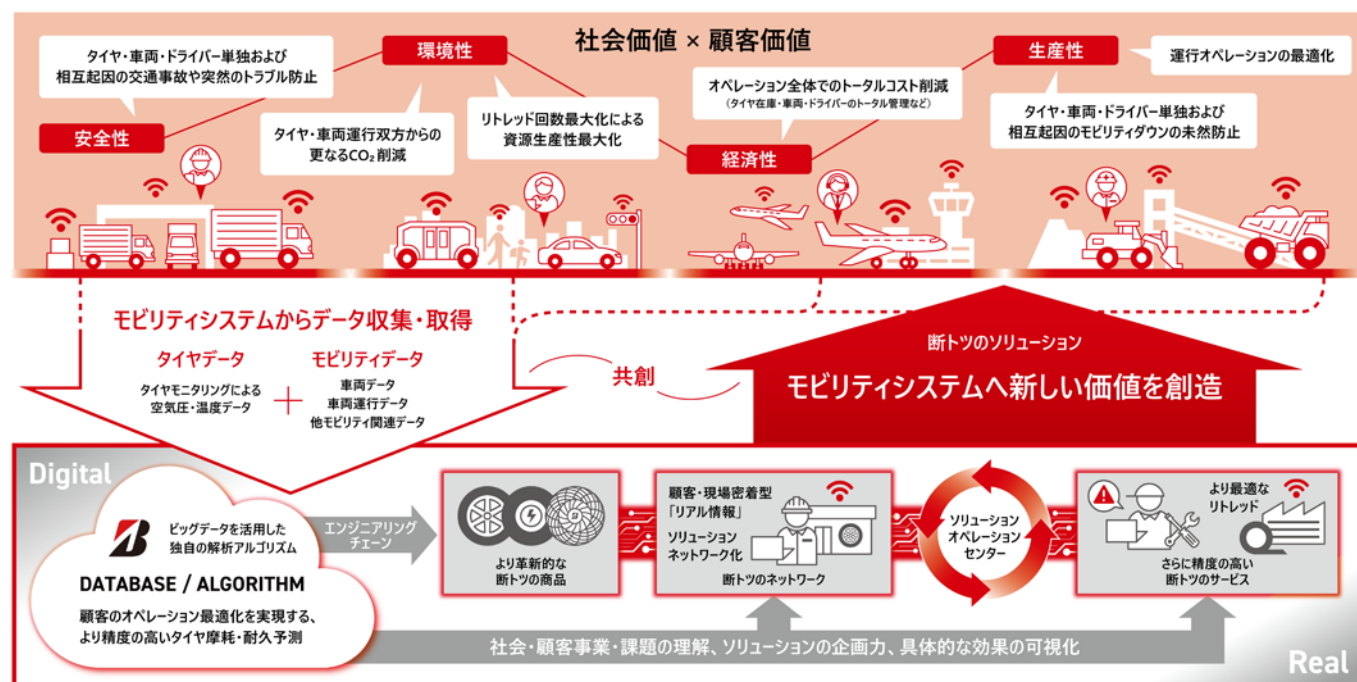
MaaSやCASEに象徴されるように、自動車業界は100年に1度の大変革期を迎えており、モビリティの進化は、「ゼロ交通事故」「ゼロエミッション」「ゼロ交通渋滞」など、社会が抱える多くの課題を解決する大きな可能性を秘めています。当社グループは、進化するモビリティ社会全体を支えるコントリビューターとして、タイヤやゴムに関する知見とタイヤデータ及びモビリティデータを掛け合わせて新しい「システム価値」を創造する、モビリティソリューション事業を推進していきます。

あらゆるモビリティにおいて、タイヤは唯一路面に接する部品であり、車両の運行やモビリティシステム全体を支える重要な役割を担っています。鉱山用車両や航空機において、そのオペレーションを支えるタイヤのパフォーマンスは、お客様の事業利益に直結する重要な要素です。今後あらゆるモビリティが大きく進化し、従来以上にお客様のオペレーションが高度化・複雑化・システム化することで、高い稼働

率の維持がより重視され、タイヤの重要性や求められる役割もさらに増していくと考えています。

当社グループは、モビリティを支えるプラットフォームの提供を通じて、あらゆるお客様のオペレーションに「リアル」と「デジタル」両方へのオープンなつながりを組み合わせ「システム価値」を創造し、提供していきます。当社グループの断トツのタイヤや、独自の摩耗・耐久予測技術及び運行状況のリアルタイムなモニタリングなどにより、オペレーションの最適化や事故・トラブルの未然防止、ダウンタイム回避、車両管理工数の削減、そしてタイヤ資産の最大活用によるTCO(トータル・コスト・オブ・オーナーシップ)の削減といった顧客価値を生み出していきます。さらに、社会やお客様、パートナーの皆様と共に、CO₂排出量の削減やサーキュラーエコノミーの実現にも貢献していくことで、新たな社会価値を共創し、地域社会・地球と共生するモビリティシステムの構築を支えていきます。

モビリティソリューション



社会価値と顧客価値の創造

ブリヂストングループは、これまで培ってきたタイヤ・ゴムの知見や膨大なタイヤデータに加え、自動車部品の中で唯一路面に接することで得られるモビリティデータを組み合わせることで、新しい「システム価値」を提供していきます。当社グループの強みである、断トツの商品、断トツのサービス、また断トツのサービスネットワークといった「リアル」の世界で社会やお客様の困りごとを解決することに加え、「リアル」に「デジタル」を組み合わせることで、ソリューションの価値を最大化させていきます。

鉱山ソリューション



鉱山はタイヤにとって最も過酷な使用環境のひとつです。車両重量260トン、積載重量370トンの鉱山車両では、総重量を6本のタイヤで支えるため、1本あたり100トンもの荷重がかかります。タイヤの故障は鉱山事業者のオペレーションの停止に直結するため、タイヤの性能やその管理・保全状況は鉱山事業者のオペレーションに大きな影響を与えます。当社グループは、断トツの商品と断トツのメンテナンスサービス、断トツのサービスネットワークをリアルとデジタルで組み合わせることで、鉱山事業者の安全性・環境性・経済性・生産性に貢献する鉱山ソリューションを展開しています。

当社グループは、お客様のニーズや各鉱山車両の運行状況に合わせて、タイヤの耐久性を高めた断トツのブランド「BRIDGESTONE MASTERCORE」を提供するとともに、その性能を最大限発揮するための使用方法の提案、現場オペレーションに即した保守・修理・フィッティングといった総合的なサービスを提供することにより、タイヤの長寿命化や走行速度の向上、積載重量の増加などを実現し、鉱山事業の生産性向上・効率化および環境負荷の低減に貢献しています。さらには、タイヤ・車両に設置されたセンサーを活用することにより、車両の運行データに加え、タイヤの温度や空気圧などの情報をリアルタイムで把握・蓄積することが可能です。そこに当社グループのタイヤ摩耗・耐久予測等の知見を加えて解析することで、車両運行やタイヤ資産管理の効率化、タイヤ交換・ローテーションなどの予防保全時期の最適化など、鉱山事業者の安全で経済的かつ効率的な現場オペレーションの実現につながるソリューションを提供していきます。そして、ソリューションを通じて得られたデータや知見を再び商品開発に活用することで、お客様にとってより価値の高い商品やサービスを提供していくことが可能になります。また、タイヤ資産を長く大切に使うことで、資源生産性の向上やCO₂排出量の削減などの社会価値をお客様と共創しています。

当社グループは既に鉱山事業が盛んなオーストラリアにおいて、マイニングソリューションセンターを2拠点開設しており、お客様の現場に密着してこれらのソリューションを提供していますが、こうした取り組みを今後、グローバルで展開していきます。

航空機ソリューション

航空機用タイヤは、機体の重量を支えながら、高速で離着陸を繰り返すという過酷な状況下で使用されるため、その開発・製造にあたっては総合的かつ高度な技術力が求められます。航空機用タイヤには、新品タイヤだけでなく、すり減ったタイヤの表面を貼り替えて再利用するリトルレッドタイヤが使用されており、数百回の離着陸の後に交換されます。タイヤは安全運行を支える最も重要な部品のひとつであり、お客様である航空会社にとっては、交換に伴う点検・整備・在庫管理などを適切に実施することが非常に重要になります。しかし、タイヤを交換するタイミングは機体や運行条件による摩耗状態に左右されるため、突発的なタイヤ交換や、交換時期の集中が発生していました。

当社は、日本航空株式会社（以下、日本航空）に全面的にご協力いただき、日本航空の持つ航空機に関する知見・フライトデータと当社の持つタイヤに関する知見やデジタルを活用した摩耗予測技術を組み合わせることで、より精度の高い計画的なタイヤ交換・メンテナンスオペレーションを実現しました。これにより、お客様の安全運航への貢献の他、タイヤ管理工数やタイヤ在庫適正化、さらには機体メンテナンス業務全体の効率化によって、生産性・経済性の面においても顧客価値を創造しています。また、この新しいサービスを通じてタイヤ資産を長く活用いただくことで、資源生産性の向上に貢献するとともに、タイヤ生産過程におけるCO₂排出量の削減にも繋がっています。

この航空機ソリューションモデルは、当社のフィールドエンジニアを中心としたチームが、お客様の現場に密着する中で得られた様々な気づきを基に構築された当社独自のモデルであり、モビリティシステムを支え、社会価値・顧客価値を両立する事業として、今後も順次拡大していきます。

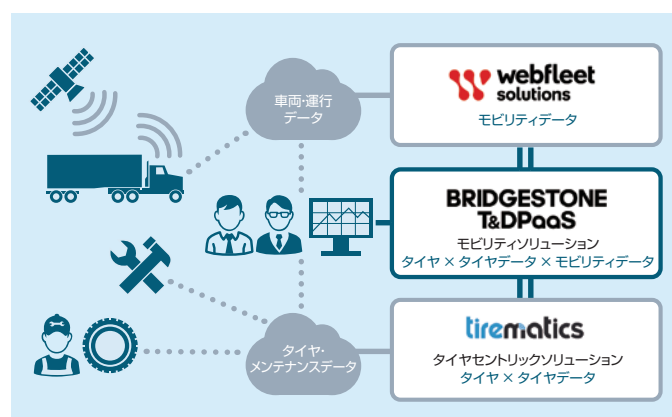


運送ソリューション

当社グループは、小口宅配から大型長距離輸送まで、様々な形態で重要な社会インフラとなっている運送事業のお客様に運送ソリューションを提供しています。それぞれのお客様のニーズに合った新品・リトレッドタイヤの提供・管理から、使用時のメンテナンスなど、安全・安心につながる断トツの商品と断トツのサービスを、当社グループの誇る断トツのネットワークを通じて提供し、お客様のビジネスを支えています。

デジタルツールを活用して、お客様のタイヤライフサイクル全体における情報の管理・分析を行い、パンクや故障といった運行トラブルを未然に防ぐサービスを提供することで、お客様の安全運行をサポートしています。また、リトレッドタイヤを活用することで、お客様のTCO（トータル・コスト・オブ・オーナーシップ）の削減や環境負荷の低減にも貢献しています。

また、「WEBFLEET」という車両テレマティクスデータを活用した運行管理サービスを展開し、運行状況に関する様々なデータの管理・提供を通じて、ドライバーや運送事業者の安全性・効率性・生産性の向上に貢献しています。すでに欧州を中心に約90万台の車両に対して「WEBFLEET」を提供していますが、これらの車両運行データと、当社グループがこれまで培ってきたタイヤに関する摩耗や耐久などの知見を組み合わせることで、それぞれのお客様の固有の運行条件やニーズを踏まえた最適な商品やサービスの提供、輸送運行オペレーションの効率化の提案など、より一層幅広いソリューションの提供が可能になりました。さらに、このソリューションを通じて蓄積された車両の稼働状況やタイヤの使用状況などのデータを活かすことによって、お客様のニーズや用途に応じた高品質のタイヤを、これまでにないスピードで開発することが可能となります。「WEBFLEET」を通じて、輸送運航オペレーションの効率化による燃費向上や、CO₂排出量の削減にも貢献しています。



お客様からのコメント

「WEBFLEET」は、当社だけでなく、保険会社やドライバー、そして環境にとって、皆がWin-Winになるものです。その成果は数字にも現れています。

- ・ 燃費コスト:10%削減
- ・ CO₂排出量:2,000トン削減
- ・ 交通事故に係る保険金の削減額:約1億7,100万円
- ・ 非効率、危険な運行の割合:58%削減
- ・ スピード超過:ほぼゼロ

Peter Kelly

Group Compliance and Fleet Manager, Elis



MaaSソリューション

今後モビリティが進化していく中で、MaaSにより「人の移動」も大きく進化し、モビリティに携わる企業には、社会課題の解決や人々の多様な生活の実現へ貢献することが期待されています。MaaSでは、オンデマンド・自動運転・高稼働率・マルチパーパスといった、これまでよりも高度化・複雑化したオペレーション形態が想定され、タイヤの性能やメンテナンスのレベルにも大幅な向上が求められています。例えば自動運転において、これまでドライバー自身がいわばセンサーとして様々な異常を検知していましたが、無人運転の状況下においては、路面に接する唯一の部品であるタイヤにその役割を果たすことが求められてきます。このように、タイヤがデジタルで道路とつながり、車両や部品とつながり、さらにはタイヤ同士もデジタルでつながることで新たな価値が創造できると考えています。

当社グループは、鉱山ソリューションや運送ソリューションなどを通じて得られる知見も活用し、高性能・高機能な断トツの商品と、断トツのネットワーク網において断トツのサービスを提供することで、MaaSの安全運行を支えるモビリティシステムの構築にも貢献できると考えています。今後、MaaSは様々なオペレーション形態が併存しながら発展していくと考えられていますが、当社グループはあらゆるMaaSオペレーションとオープンにつながり、「高性能・高機能なタイヤ」、「検知・予知に基づく予防保全の実現及び緊急時のメンテナンス体制」、「オペレーションの最適化」を組み合わせ、ダウンタイムの最小化による生産性の向上、オペレーションの最適化といった「システム価値」を提供しMaaSを支えるプラットフォームを通じて、地域社会や地球と共生しながらモビリティの進化に貢献していきます。

新たな価値の共創に向けて

ブリヂストングループは、テクノロジー、ビジネスモデル、デザインのオープンイノベーションを推進しながら様々な領域の技術を融合させることで、ステークホルダーとの共創を促進し、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

素材

ゴムのしなやかさと樹脂の強靭さを兼ね備えた世界初の次世代ポリマー「SUSYM(サシム)」

ゴムと樹脂を分子レベルで結びつけた世界初のポリマーである「SUSYM」は、従来のゴムよりも高強度・高耐久であるとともに、(1)穴が開きにくい、(2)治る、(3)低温でも強いなどの性能が飛躍的に向上しています。この3つの性能において、ゴムのしなやかさと樹脂の強さを両立しながら、それぞれの特性を自在に引き出すことができ、タイヤ以外の様々な分野への親和性が高く、実社会との共生可能な革新的な材料であると考えています。また、従来のゴムより高強度・高耐久のため、より少ない材料使用量でタイヤに求められる様々な性能を達成可能であることや、再生可能であるため、環境調和型の新素材として持続可能な社会へ貢献していくことを期待しています。

これまでの素材の常識を超えた数々の機能を実現するこの独自技術を当社主催のフォーラム(Open Innovation Hub)などを通じて、様々な分野、多くの企業・団体と連携しながら研究・開発をすすめ、「SUSYM」の素材としての無限の可能性を拓いていきたいと考えています。



システム/インフラ

道路からインホイールモーターへのワイヤレス給電の産学官連携による共創を通じ、低炭素社会実現に貢献

ブリヂストンは東京大学大学院新領域創成科学研究科堀・藤本研究室が展開する、国立研究開発法人科学技術振興機構(IST)未来社会創造事業の研究プロジェクト「電気自動車への走行中直接給電が拓く未来社会」に参画し、多くの企業・研究機関と連携しながら「受電から駆動までの全てをタイヤのなかに」をコンセプトとして電気自動車(EV)に搭載されるインホイールモーターへの走行中ワイヤレス給電の実用化を目指しています。

ブリヂストンは、給電時にインホイールモーターへの電力伝送を高効率で達成するためのタイヤの技術開発を担当し、タイヤ・車両・社会インフラ一体としての新たなシステム開発に取り組んでいます。



構造

“世界の道”から“宇宙”へ

ブリヂストンは、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)、トヨタ自動車株式会社と共に、月面での有人探査活動に必要なモビリティ「有人圧ローバ」に装着するタイヤ(接地体)の研究を推進しています。無重力で温度高低差が大きい月面の厳しい環境において、接地体が果たすべき4つの役割(荷重を支える、駆動力・制動力を伝える、方向を転換・維持する、斜度や岩砂など様々な路面状態に対応する)を実現するために、砂漠上のラクダの足元からヒントを得て、しなやかで強靭な接地体の開発に挑戦しています。最も過酷な使用条件下で開発される技術は災害車両等様々な幅広い用途への応用が期待されます。



提供トヨタ自動車株式会社

イノベーションのための新拠点

ブリヂストングループは、社会・お客様・パートナーの皆様との新たな価値の共創を促進するとともに、イノベーションとソリューションを発信していきます。「最高の品質で社会に貢献」という企業理念の使命のもと、当社グループの強みと特性(コアコンピタンス)を活かし、イノベーションを通じて新たな価値を創造し、社会課題の解決に向けたソリューションビジネスを展開することによって、持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指しています。当社グループは、2020年を「価値創造」の起点として新たなイノベーション拠点を設け、新たな社会づくりを支える会社へと進化していきます。

ブリヂストン クロス ポイント

当社グループのデザイン・ブランドを核とした社内外交流・共創活動の拠点として、「Bridgestone Cross Point(ブリヂストン クロス ポイント)」をミュージアムタワー京橋に開設しました。「Bridgestone Cross Point」は、デザインが果たす役割を拡大しイノベーションに活用していくことで、社会価値・顧客価値の創造に取り組み、人々により快適に移動し、生活し、働きそして楽しむことに貢献していきます。



Photography: Tomooki Kengaku

ブリヂストン イノベーション パーク

技術開発拠点である小平地区を再構築し、イノベーションを通じて新たな価値の創造を実現するグローバル拠点として、「Bridgestone Innovation Park(ブリヂストン イノベーション パーク)」を開設します。「Bridgestone Innovation Park」は社会・お客様・パートナーの皆様にご共感いただくことから始め共議・共研・共創へと関係を深めて技術・ビジネスモデル・デザインのイノベーションを加速して新たな社会価値と顧客価値を生み出していくための複合エリアです。エリア内に設置される4つの施設は右記の通りで、2020年「Bridgestone Innovation Gallery(ブリヂストン イノベーション ギャラリー)」の開所を皮切りに、順次オープンしていきます。



Bridgestone Innovation Park

(ブリヂストン イノベーション パーク)



B-Innovation (ビーイノベーション)

社内外の交流を促進し、共感〜共創を通じてオープンイノベーションを推進する場



Bridgestone AHL Arena

(ブリヂストン エイエイチエル アリーナ)

スポーツを通してアクティブにそして健康的に、障がい者・シニア・ジュニアを含む多様な人々が交流し、共に楽しむことによって共生社会(Diversity & Inclusion)を実践していく場

Bridgestone Innovation Gallery

(ブリヂストン イノベーション ギャラリー)

ブリヂストンの歩みやDNA、事業活動、さらに未来に向けた活動をご紹介します場

B-Mobility (ビーモビリティ)

テストコースや解析設備を備え、B-Innovationで生み出されたアイデアを実車を使って体感、検証する場